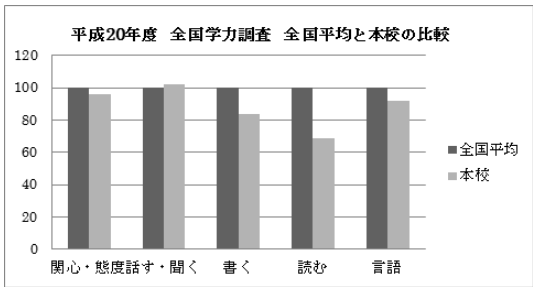
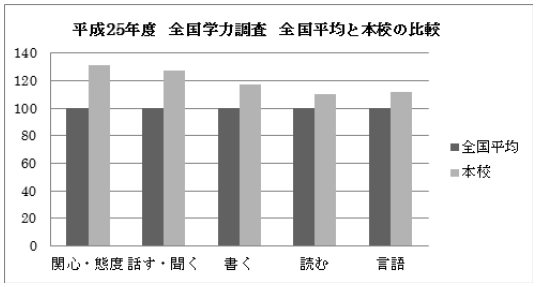
「読むこと」を大切にし、自分の思いや考えを表現できる子の育成
～練馬区立南田中図書館と連携した教育活動の推進～

平成２１年度より５年間にわたり、区立南田中図書館と連携し、国語の授業改善に努めてきました。その研究について説明させて頂きます。お目通し頂ければ幸いでございます。

１　研究主題設定の理由・背景





左の２つのグラフは、平成20年度と平成25年度の全国学力調査での国語Ａ「評価の観点」の項目をそれぞれ本校と全国を比較したものです。

平成21年度から本研究がスタートしましたが、全国学力調査の結果から、国語科の特に「書く能力」「読む能力」に課題があり、他教科等への影響も見られたため、学校全体で授業改善をし、言語能力の向上を図る必要性を強く感じました。

時を同じくして平成 21 年 5 月に、本校敷地内に体育館との合築により開館した区立南田中図書館と連携した教育活動を推進し、図書館の建築費用に見合った教育効果をあげ学力を向上させるよう教育委員会より大きな使命が本校に課せられました。区の施策により、学校支援モデル事業が実施され、南田中図書館が担当する近隣の小・中学校６校に、学校図書館支援員が１名位置され手厚い支援（読書活動の支援、学校図書館運営の支援、南田中図書館の利用の支援、学校図書館機能の整備への支援）が受けられるようになりました。地の利もあり、国内最高水準の公立図書館からの支援を受けられるようなった訳です。その支援に応えられるよう「我々も、国内最高水準の国語の授業を作り上げよう。」を合い言葉に研究を進めてきました。

今回の学習指導要領改訂では、思考力・判断力・表現力等の育成のための大きな改善の方向性の一つとして、学校教育全体における「言語活動の充実」が示されました。

これらの力を身に付けさせるためには、小学校段階から「読むこと」を重視し、国語科の授業の中で、「読むこと」の授業を意図的・継続的に組み立てていくことが大切であり、また、「話すこと・聞くこと」「書くこと」についても具体的な言語活動の中で、相手、目的や意図、多様な場面に応じて自分の考えを表現することが大切だと考えました。

「児童が、課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等を育み、生きて働く国語の力を身に付けさせたい。」と願い、本研究主題を設定し研究に取り組んできました。

その結果、5 年間で、「書く力」「読む力」ともに、大幅に向上させることができました。

２　実践の概要

(1) 研究のねらい

① 南田中図書館と連携し、思考力・判断力・表現力を育成するため単元を貫く言語活動を設定した授業を追究をする。

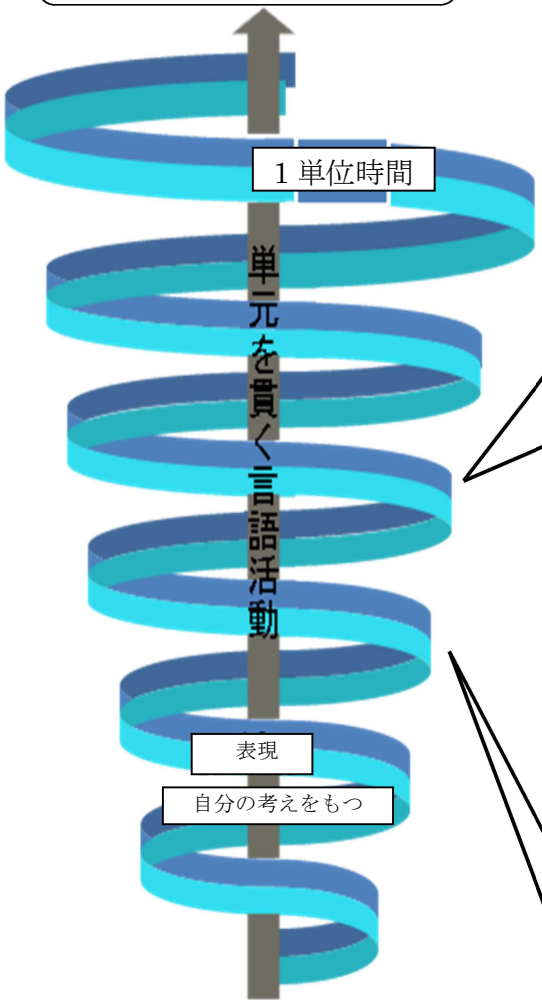
② 南田中図書館や学校図書館支援員の効果的な活用を探り、読書に親しみ、進んで自分の考えを表現できる児童の育成を図る。

(2) 国語の授業モデルを次のように設定し授業改善に取り組んできました。

① 南田中モデル
（国語の授業）

これらの指導の手立てを講じたことにより、より深い読みと質の高い意見の交流が展開されるようになってきました。

身に付けさせたい力



自分の思いや考えをもつための指導

・正しく読み取らせるための音読。
・叙述を基に、読んで考えたことを交流し、自分の考えを深めたり広げたりさせる。
・プレ教材等を活用し、教材に応じた読み方の方法を指導する。
・「説明の工夫を探して読む」「筆者の主張を裏付ける具体例を読む」など、目的を明確にしてから読ませる。
・児童が一人で教材を読み進める時間を確保する。
・筆者の主張や書きぶりに着目させ、そこから作品のテーマを考えさせる
・筆者の主張や説明の論理性を捉え、それに対する自分の考えをもたせる。
・文中に疑問点を見つけさせ、それに対する予想や推測を述べさせる。

表現力を付ける指導

・目的意識や相手意識をもたせて表現させる。
・語彙を増やすため、教科書巻末の資料や国語辞典を利用させたり、二字熟語や難語句を調べたりさせる。
・図鑑や資料で調べたことを、目的に応じて整理する方法を指導する。
・モデル文を活用し、報告文や説明文などの書き方を指導する。
・モデル文を活用し、紹介文や感想文などの書き方を指導する。
・友達と読み合って表現の仕方について交流させたり、自分で読み直させたりして推敲させる。
・少人数での意見交流や全体交流を行う。
・個に応じた表現の目標を設定し、段階的に表現力を高めさせる。

・マトリックス型年間指導計画の作成
・児童の実態把握と指導事項の確認
・実態に応じた単元目標の設定
・単元目標を達成するための言語活動（単元を貫く言語活動）の設定

『今年度の実践事例』

単元を貫く言語活動例

1年 『「いきものはっけん！マップ」をつくろう』
２年『興味をもった仕事について、カードを作って発表しよう』
３年『読んで、感想をもとう』
４年『説明文を読んで、筆者に手紙を書こう』
５年『筆者の考えをとらえ、意見文を書こう』
６年『ものの見方を広げ、「一押し！アートギャラリー」をつくろう』

図書館利用の例

＜第１次＞
本の紹介、ブックトーク
＜第２次＞
並行読書、比べ読み
＜第３次＞
児童による本の紹介
児童によるブックトーク

３　国語科における区立図書館・学校図書館の活用

本校では、国語科における図書館利用を、年間計画に位置付け、単元で身に付けさせたい能力を明確にした上で、次に示すような活用をしています。また、その単元での目標を達成するために、並行して図書利用指導を低・中・高学年で計画を立てて指導を行っています。

一単元の学習の流れにおける図書館利用

一単元の「第一次」「第二次」「第三次」における図書館利用では、次のような活動に取り組んでいます。

第一次	第二次	第三次
・読み聞かせ ・ブックトーク ・ストーリーテリング ・本の紹介	・並行読み ・比べ読み ・調べ読み ・読み聞かせ ・ブックトーク ・本の紹介　・劇	・読み広げ（同じ作者の他の作品、同じテーマの他の作品、シリーズ作品） ・児童による読み聞かせ　・音読発表会 ・児童によるブックトーク ・児童によるストーリーテリング ・児童による本の紹介　・ポップ作り

【実践事例　第４学年　名シーンと迷シーンを伝えよう　「白いぼうし」】

学習材の関連図書である「車のいろは空のいろ」シリーズを児童数分集め、並行読書を行いました。シリーズ作品を読み進める過程で、「白いぼうし」と他作品の共通点（中心人物の人柄、作品の雰囲気、作者の書き癖等）に着目させました。作品の根底にある一種のルールやパターンを本教材に当てはめることで、読みを深めさせることができました。

並行読書による読み取りを交流に生かす

第二次では、並行読書での読み取りを、交流活動に生かす児童の姿が多く見られました。本文の叙述から読み取れる中心人物の人柄について自分の考えを書いた後、他作品からも根拠を見つけることで、複数の叙述から統合して人柄を考えることができました。

４　研究の成果

(1)　「自分の思いや考えをもつ」ための手だてとして、読みの観点を示し、教材に応じた読み方を指導したことで、自分の思いや考えをもたせることができました。また、根拠となる叙述を引用して説明する方法を身に付けさせることができました。

(2)　「表現する」ための手だてとして、教師がモデルを示したことで、表現することに難しさを感じる児童も目標に見合った表現力を身に付けさせることができました。また、話形だけでなく、友達の意見に対する反応の仕方を指導しました。これにより、交流活動の中で対話が成立し、考えを広げ深める姿が多く見られるようになりました。

(3)　児童の読書量が大幅に増え、図書の貸出冊数が５年前に比べて５倍となりました。

(4)　大幅に学力が向上しました。

(5)　教師の授業力が向上し、児童がじっくりと考え意見を交流する姿が見られるようになり、国語の授業を楽しみにしている児童が増えてきました。

(6)　本校の教育活動が評価され、平成２５年度子どもの読書活動優秀実践校「文部科学大臣賞」を受賞することができました。